

～歴史を未来へつないで～

中日国交正常化 50 周年記念友好ドラマ



中日国交正常化50周年に当たり、中国駐名古屋総領事館は、中日両国の青少年を特別に招き、若者たちが中日友好の歴史的場面を題材として、50枚の絵画を共に描く「歴史を未来につなぐ——中日国交正常化50周年記念友好ドラマ」にまつわる催しを行っている。作品は「あゆみ」～歴史を刻んだ友好の証、「よしみ」～民間の感動と親しみ、「ぬくもり」～まさかの時の友こそ真の友、「架け橋」～ピンポン外交が導く未来、「むすび」～私たちの

足跡という五つの部分からなり、中日友好の物語と中国駐名古屋総領事館の活動を語っている。両国の青少年は創作で感情と才能を注ぎ、両国国民の間で感動を覚える瞬間を絵画で記録した。

第一幕

「あゆみ」～歴史を刻んだ友好の証



1972年9月29日、中国と日本は
中日共同声明を締結し、国交正常
化を実現した。



1956年、中国の京劇名俳優・梅蘭芳は周恩来総理の依頼を受け、劇団を率いて三度目の来日公演を行った。この公演は大成功をおさめ、日本ないしは世界の人々に京劇の魅力を知らしめた。これは梅蘭芳が日本の友人である遠山孝に送った葉書で、第3回日本公演のスケジュール写真が印刷されている。

明末清初、隠元禪師は日本に渡って仏教の教えを広めて、臨済宗を日本にもたらし、禪師は日本禅宗三大宗派の一つである黄檗宗を発展させた。日本の仏教に大きな影響を与え、日本禅宗の中興の祖師として敬われている。これは長崎・興福寺にある隠元禪師の銅像。



唐代の高僧鑑真は、日本の留学僧栄睿と普照の願いを受け容れ、日本への渡航を六度試み、あらゆる困難を乗り越えて、日本に赴き仏教を広めた。





李大釗ら中国共産党の主要創始者と革命者の先人たちは、早稲田大学での留学期間中、先進的な革命思想に触れた。帰国後、中国共産党の成立とマルクス主義の普及に重要な貢献を果たした。

1902年、22歳の魯迅は救国救民の真理を求める理想を持って日本に留学し、仙台の医学専門学校で藤野厳九郎先生と出会い、感動的な師弟の情を育んだ。



1962年、日本の元通産大臣高碕達之助は、日本企業代表団を率いて訪中した際、時の中央対外連絡部副部長の廖承志と共に「中日長期総合貿易に関する覚書」（LT貿易ともいう）を締結した。これは中日関係が「民間往来」から「半官半民」段階へと移行する重要な基礎となった。

1959年、日本の政治家松村謙三と陳毅の対局。松村先生は生前何度も中国を訪問し、中日国交正常化のために奔走し、中日友好関係の基礎を築いた立役者である。





1978年、中国と日本は中日友好平和条約を調印した。これは1972年9月の中日共同声明の発表、中日両国国交正常化コミュニケに次ぐ、両国関係史上のもう一つの新たな一里塚となった。

1980年、中国江蘇省と日本の愛知県が友好協議を締結した。



第二幕

「よしみ」～民間の感動と親しみ



1978年、日本映画『君よ憤怒の河を渉れ』が中国で上映され、大きなブームを巻き起こした。



2017年、日本の歌舞伎『義経千本桜・鳥居前』が中国で公演。



2017年、バレエ『トキ』が日本で上演された。1980年代以降、中日両国の関係部門はトキの保護と繁殖のために密接な協力を行い、多くの共同研究を行っている。日本側は資金や技術面で積極的な支持を行い、中国は日本にトキを寄贈あるいは提供して、日本のトキの最後の生息地である新潟県佐渡市で保護・繁殖を行い、日本の野生のトキの群れの回復の基礎をつくりあげた。トキの保護における中日協力はウインウインで、世界の野生動物保護史における成功モデルとなっている。

1995年11月、愛知県
の中日友好活動家百
名余りが、南京城壁の
修復に参加した。



1993年、中日友好活
動家の小島康誉を代
表とする日本の専門
家と中国専門家から
なる中日学術調査隊
が新疆で発掘を行っ
た。1995年10月、調
査隊は新疆のニヤ遺
跡で漢代の絹織物「五
星出東方利中国」を発
見し、中国国家一級文
化財とされている。

1980年代、「砂漠の父」と呼ばれる遠山正
瑛は、内蒙古の砂漠で植林活動を行った。
1980年代以降、遠山は中国にやってきて
植林をし、毎日クブチ砂漠の恩格貝で10時
間植林を行った。その影響のもとで、日本
の7300人のボランティアが恩格貝で植樹
を行い、300万株の樹木を植え、砂漠4万
ムー（約2670ヘクタール）を緑化し、「内
蒙古自治区栄誉市民」「中日友好使者」の称号
を与えられ、国連より「人類に対する思い
やり市民賞」を授与された。



2017年9月30日、ジャイアントパンダ「シャンシャン」の誕生から100日目の写真。



2015年7月5日、東京・渋谷で、「中日友好抱一抱」(日中フリーハグ)が行われた。

2011年12月、『清明上河図』が日本の東京国立博物館で展示された。

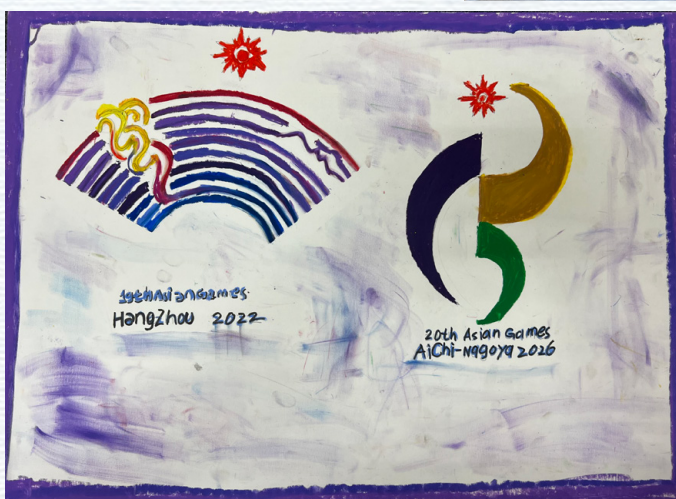


1995年小島プレス工業株式会社の小島鐐次郎元会長が青海省小島文化教育発展基地を寄贈した。小島は青海省の教育文化事業、経済・社会の発展に際立った貢献を行い、2008年中国政府により外国人専門家の最高賞である中国国家友誼賞を授与された。



2008年北京オリンピックに際し、長野県で行われた北京オリンピックの聖火リレーで、卓球の福原愛選手がランナーを務めた。

2022北京冬季オリンピックで、羽生結弦選手とビンドウダウン。



2022杭州アジア競技大会と、2026愛知・名古屋アジア競技大会のエンブレム。

2020東京オリンピック。お互いを励まし合う中日女子バトミントン選手。



2022北京冬季オリンピックで、日本テレビのアナウンサー辻岡義堂（中国でのニックネームはギドゥンドゥン）と冬季五輪マスコットの「ビンドゥンドゥン」。

2022北京冬季オリンピック。スノーボードの蘇翊鳴選手と佐藤コーチの友情。

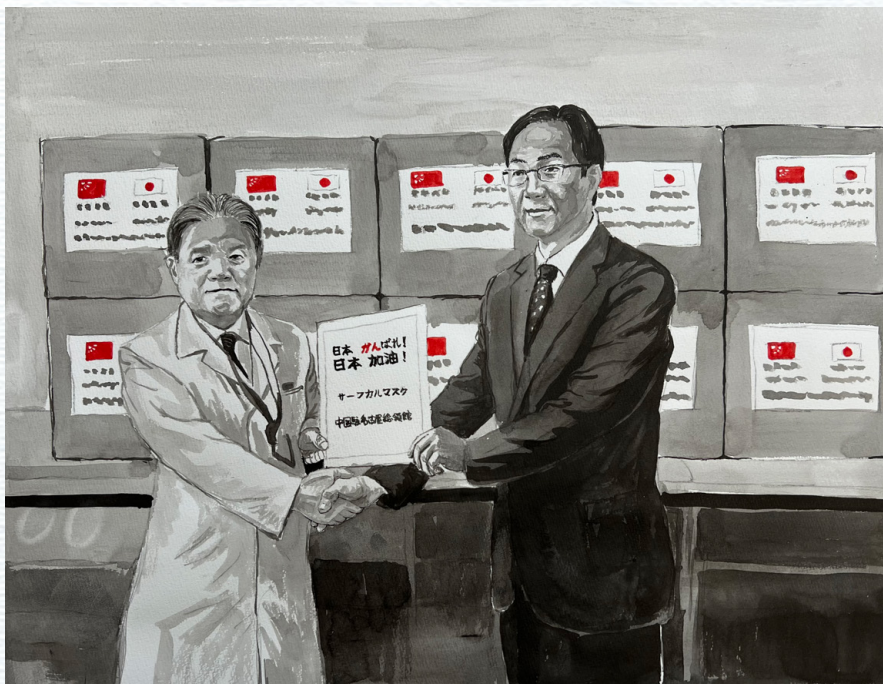


第三幕

「ぬくもり」～まさかの時の友こそ真の友



2020年2月、「武漢からの恩返し」と銘打ち、日本の人々の武漢への支援のお礼として、日本の街頭でマスクを配る中国の女子学生。



2020年2月、新型コロナウイルスが世界を席卷し、チャイナドレスを着た日本の女の子が渋谷の街頭で、武漢のための募金を行った。

2020年3月17日、劉曉軍元総領事は、名古屋市立東部医療センターにマスクを寄贈した。

2011年の東日本大震災の際、中国の三一重工は福島原子力発電所を支援した。





2016年の熊本地震の際、中国政府と民衆および在日華人は、積極的に救援活動に参加した。『人民中国』誌はこの際に、くまモンを慰問するジャイアントパンダのイラストを掲載した。

2008年5月の中国四川大震災の際、犠牲者に黙とうを捧げる日本の国際救援隊。



第四幕

「架け橋」～ピンポン外交が導く未来



1971年、日本卓球協会の後藤鉦二会長は重なる困難を排して中国を訪問し、中国選手に名古屋で開かれる第31回世界卓球選手権大会への参加を要請した。訪中期間中、周恩来総理の接見を受けた。

2021年8月、駐名古屋総領事館はピンポン外交50周年記念交流大会を開催した。





2015年5月22日、程永華元駐日大使は、愛知県名古屋市のピンポン外交記念モニュメント除幕式に出席した。

1971年、名古屋で開かれた第31回世界卓球選手権大会で勇敢に戦う中日両国選手。



第五幕

「むすび」～私たちの足跡

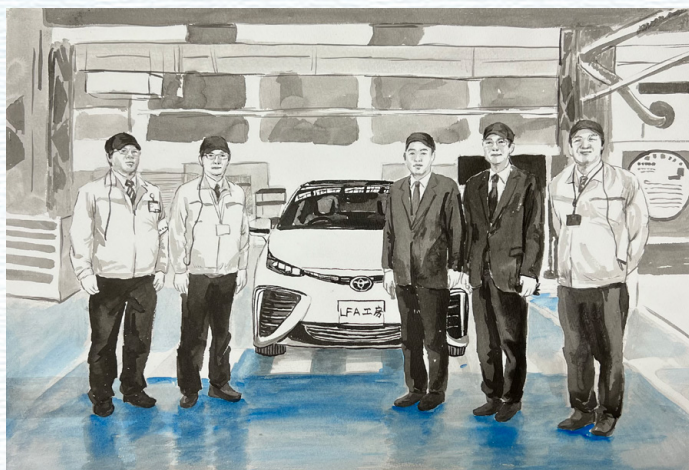


2012年1月
18日、春節
前に中国の
研修生を見
舞う張国立
元総領事。

2020年6月、生命のリレー。中国駐名古屋総領事館の全力を尽くした調整のもとで、中日両国の外交・地方・出入国管理部門および医療界が新型コロナウイルスによる多くの困難を排して、協力して生命救助のための「グリーン通路」をつくりあげ、巨細胞性動脈炎にかかった日本滞在中の研修生を、名古屋から武漢への中国南方航空の飛行機にのせて、手術を無事成功させた。



2020年1月、孔鉉佑駐日大使と劉曉軍元総領事がトヨタ自動車を訪問。



2007年、第1回名古屋中国春節祭が盛大に開幕した。

2019年、中部六県の大学生百人訪中団が江蘇省を訪問した。



2018年、第13回桜二胡音楽会が開催される。